

さぬき市少子化対策等 プロジェクトチームについて



未来に、
ちょっとワクワクしてみない？

令和8年2月17日（火）

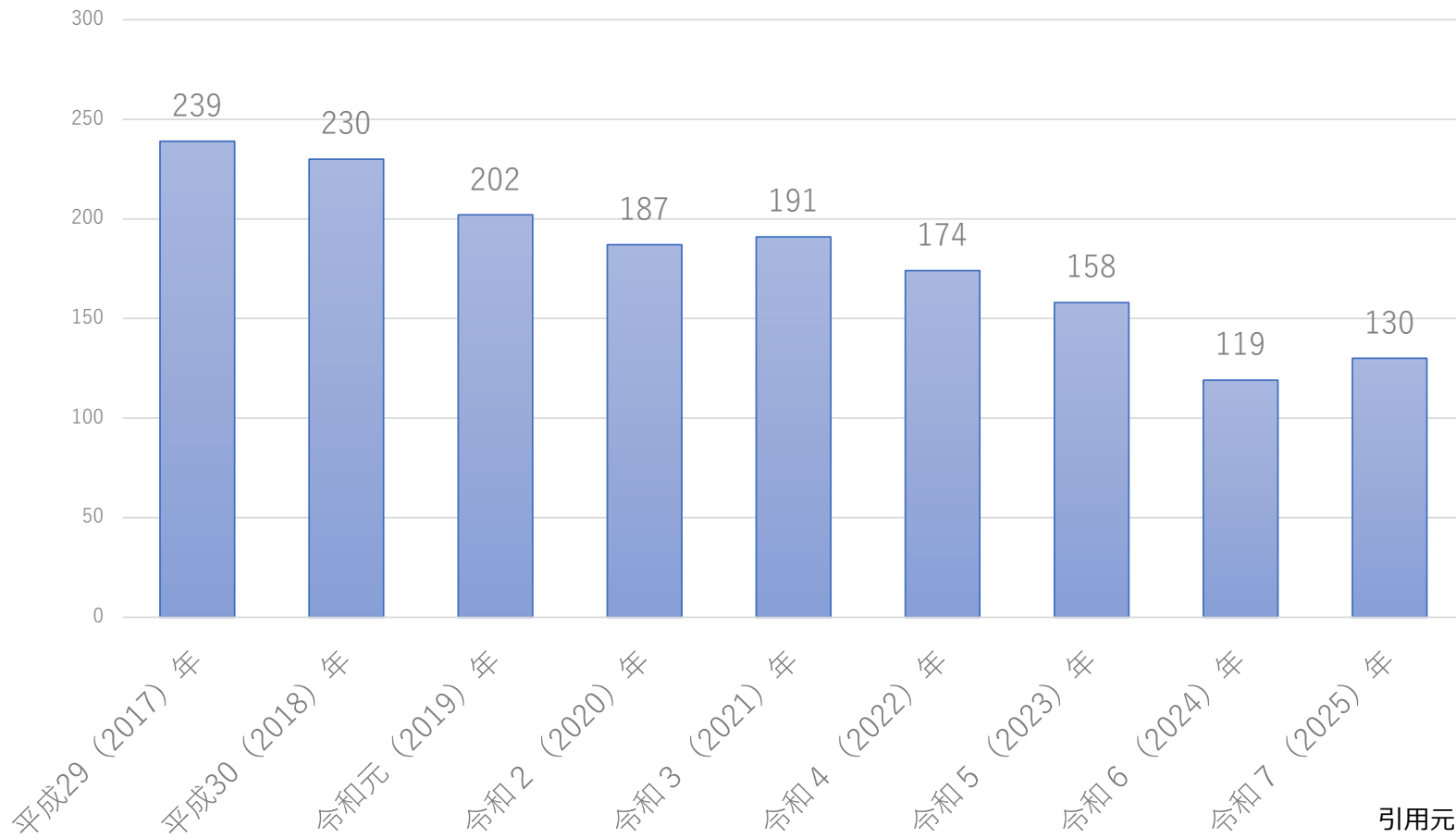
目次

- 1 プロジェクトチーム設置の背景
- 2 プロジェクトチームの概要
- 3 これまでの議論の経過
- 4 検討した取組み案
- 5 今後の流れ



1 プロジェクトチーム設置の背景

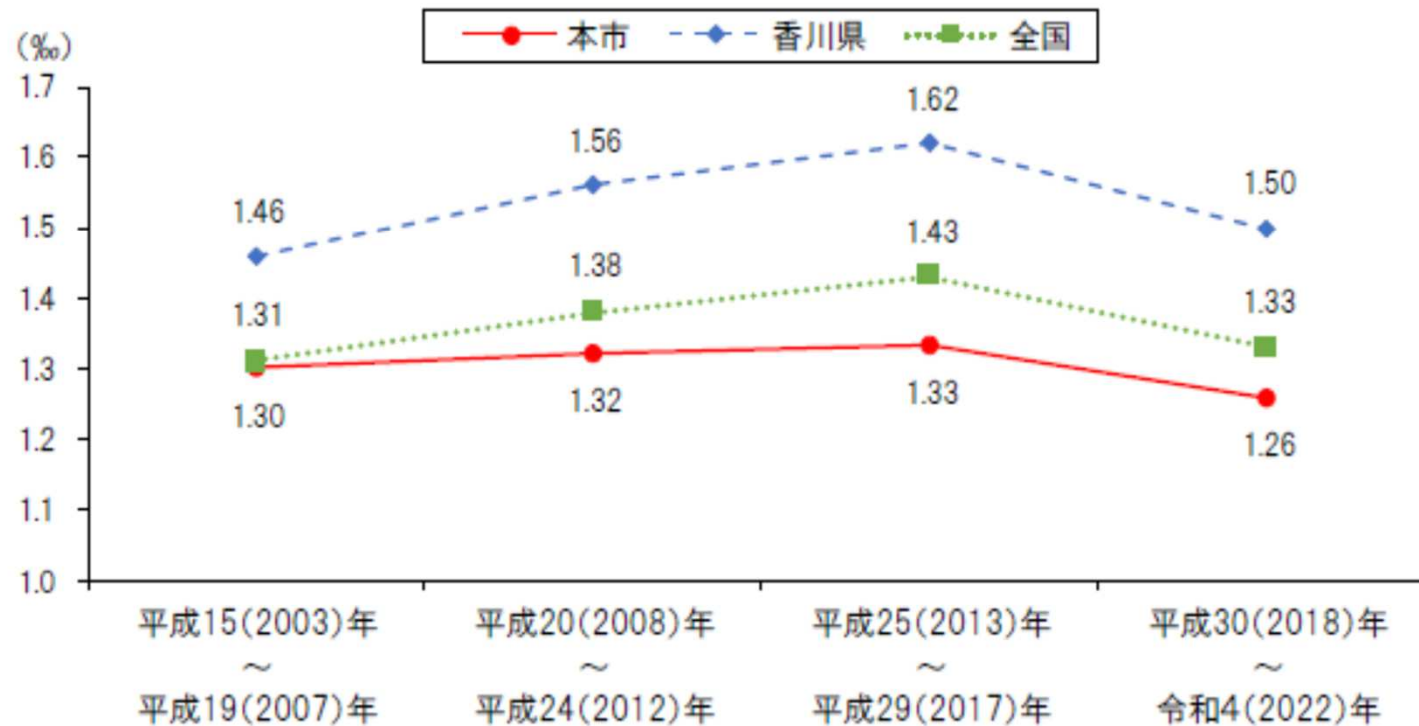
さぬき市の年間出生数の推移（人）



引用元：香川県人口移動調査
令和7年は市民課からの報告

1 プロジェクトチーム設置の背景

■図表 11 合計特殊出生率（ベイズ推定値）の推移■



※ベイズ推定値とは、女性人口や出生数が少ない自治体の出生率には年度によって格差がでることから、周辺自治体のデータ等を踏まえて平準化する推計手法のこと。

出典：人口動態統計特殊報告

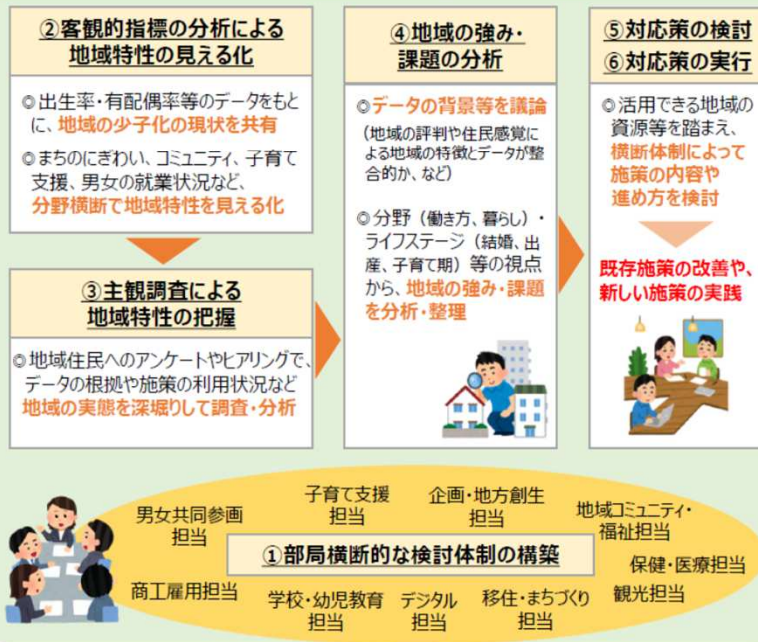
引用元：さぬき市人口ビジョン（令和7年3月改訂）

2 プロジェクトチームの概要

「地域アプローチ」による少子化対策の推進

- ◎ 少子化の問題は、出会いの機会の減少や経済的な不安定さ、仕事と子育ての両立など、様々な要因が複雑に絡み合っており、それらの状況は地域によって異なるため、実効性のある少子化対策を進めるためには、地域の分野横断的な状況や特徴を分析し、**地域の実情に応じた少子化対策（＝「地域アプローチ」による少子化対策）を推進していくことが重要。**
 - ◎ そのため、横断的な体制づくりからデータの分析・ヒアリング等による地域特性の見える化を通じた具体的な対応策の検討等の一連のプロセスをまとめた「**少子化対策地域評価ツール**」等の資料を整備。（R2.3策定、R3.4・R4.3・R5.3改訂）
- ▶ 各自治体における地域評価ツール等を活用した**地域の実情に応じた効果的な少子化対策の取組の推進**を支援している。

「少子化対策地域評価ツール」を活用して、分野横断・EBPMによる検討



地域の実情に応じた取組を実践

- 地域コミュニティを巻き込んだ子育ての支え合い
 - 男女ともに子育てと両立できる魅力的な働き方
 - 職・住・育が近接した暮らしやすいまちづくり など
-
- 都市近郊のニュータウンにて、職住近接のワークステーションを設け、子育て世代が通勤負担なく働くことができるまちづくり
- コミュニティの中で柔軟に子育て支援を行う、インフォーマルな支援体制づくり

取組実施には、国の交付金・補助制度なども活用可能

- 地域少子化対策重点推進交付金
- デジタル田园都市国家構想交付金

民間との連携や、都道府県による広域支援も活用

国による情報面の支援

- 基礎データの提供や、分析への助言
- 取組事例の横展開などの情報発信 等

岡山県 少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業

2 プロジェクトチームの概要

岡山県少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業 実施背景と目的

市町村が抱える課題

- ・少子化対策を担う部署や部局横断的組織がない市町村も存在
- ・担当者は多岐にわたる業務を兼務しているため、少子化対策に十分なリソースを割けない
→少子化の要因分析ができていない、対策を検討する人的な余力がない等の課題が頻発
- ・事業構築や交付金活用等のノウハウの蓄積が少ない

県が抱える課題

- ・出生率等に関連する指標の状況は地域によって大きく異なるため、要因や課題にも地域差があり、画一的な対策では限界がある
- ・市町村に比べ、地域の実態に即した対策の実施が難しい
- ・少子化対策は、「できることは、すべてやる」という強い意志で取り組みたい

実施目的

少子化の要因や課題は地域によって異なるため、**県と市町村が力を合わせて、少子化の要因等を分析し、オーダーメイド型で対策を検討**することにより、**各地域の実情に応じた効果的な少子化対策の推進**を図る。

3 これまでの議論の経過

会議の開催状況

		開催日	会場	内容
令和6年度	第1回	R6.10.24	市内	人口減少・少子化の現状について など
	説明会	R7.1.24	市内	岡山県子ども未来課が来庁、バックアップ事業の説明
	第2回	R7.2.12	市内	少子化対策に関する既存事業の棚卸、データを用いて検討
令和7年度	第1回	R7.4.24	市内	顔合わせ、設置要項について、岡山県への参画事業について
	岡山県Day1	R7.5.14	和気町	共通認識づくり、当事者意識の醸成
	第2回	R7.5.21	市内	岡山県Day1の共有・ホームワーク
	岡山県Day2	R7.6.5	備前市	市町の現状の把握、取り組むべき課題・目指すべき姿の設定
	第3回	R7.6.24	市内	追加ワークショップ(岡山県Day2の共有・ホームワーク)
	岡山県Day3	R7.7.1	笠岡市	探索事項(インタビュー設計)の決定
	第4回	R7.7.8	市内	岡山県Day3の共有・ブラッシュアップ
	主観調査	R7.7.27	市内	住民の思い・課題・価値観の探索、課題解決方向性の探索
	岡山県Day4	R7.8.22	岡山市	課題解決方向性の整理／設定
	第5回	R7.9.24	市内	岡山県Day4の共有・ブラッシュアップ
	岡山県Day5	R7.10.6	真庭市	事業アイデアの構想・策定
	第6回	R7.10.23	市内	追加ワークショップ(岡山県Day5の共有・ホームワーク)
	岡山県Day6	R7.10.30	津山市	優先検討事業の設定、簡易事業計画の作成
	第7回	R7.12.9	市内	岡山県⑥の共有、岡山県・庁内向け報告会について
岡山県報告会	R8.2.13	市内	バックアップ事業成果報告会(WEB参加)	

3 これまでの議論の経過

主観調査で見た課題解決方向性【岡山県Day4】

目指すべき地域の状態

市内での子育て生活にワクワクできる（ママが休日を楽しめること）

課題：子育てと仕事の両立、充実が難しいと感じる人が多い

住民の声から見えてきた課題の要因①

- ・子育てに時間を取られて、自分の時間をもてていないのは女性が多いというイメージがあり、さぬき市に子育てに優しいイメージがない。（ほっと一息つく時間・環境がない）

その要因①の解決方向性

- ・母への直接的な支援。
- ・身近に遊べる場所がある。
- ・安心できるベースづくり。

参考となる住民の声

- ・融通が利くのは女性側。男性が職場を休むイメージがない。
- ・身近に子どもが遊べるところを増やしてほしい。（土日もある場所）
- ・市内に独立した産科、小児科がない。
- ・市が教育にお金をかけていない。

住民の声から見えてきた課題の要因②

- ・子育て＝未知の世界でイメージできず不安を感じている。自身の兄弟の人数が将来希望する子の人数に影響する。兄弟の人数以上はイメージしにくい。子どもの頃の経験やつながりが、地元に住む選択に影響する。（実際は良いイメージを得る場がない）

その要因②の解決方向性

- ・子どもと触れ合う場所がある。
- ・子育ての実態に前向きに体験できる場をつくることで、育児は大変だが、それを上回る喜びもあることを実感できるような雰囲気づくり。

参考となる住民の声

- ・周りの人が赤ちゃんを抱いている姿を見て可愛いなと思った。
- ・30代に入る前には結婚して子どもをみたい。
- ・育休に入ったら1年間収入がなくなる。

住民の声から見えてきた課題の要因③

- ・子育て支援策や情報の認知不足で、支援制度があっても周知が十分でなく、知らないまま出産・子育てしている人が多いため第1子を生むハードルを下げられていない。

その要因③の解決方向性

- ・相談体制・制度の充実が広く知られて、安心して住み続けることができる。

参考となる住民の声

- ・支援センターを利用するのに最初の一步は利用しづらかった。
- ・病児保育あるけど行ったことがない。
- ・広報は見ないのでネット頼り。

4 検討した取組み案

課題を踏まえた事業アイデア【岡山県Day5~6】

住民の声から見えてきた課題の要因①

- ・子育てに時間を取られて、自分の時間をもてていないのは女性が多いというイメージがあり、さぬき市に子育てに優しいイメージがない。
(ほっと一息つく時間・環境がない)

住民の声から見えてきた課題の要因②

- ・子育て=未知の世界でイメージできず不安を感じている。自身の兄弟の人数が将来希望する子の人数に影響する。兄弟の人数以上はイメージしにくい。
子どもの頃の経験やつながりが、地元に住む選択に影響する。
(実際は良いイメージを得る場がない)

住民の声から見えてきた課題の要因③

- ・子育て支援策や情報の認知不足で、支援制度があっても周知が十分でなく、知らないまま出産・子育てしている人が多いため第1子を生むハードルを下げられていない。

事業アイデア

父子イベントの開催
(母が休める環境づくり)

小児科や産婦人科の
オンライン相談

子育て世帯への
配食サービスなど

遊び場の確保&
マップ作成

事業アイデア

同左
(若者からの協力を得る)

子どもの職場体験や見学
(地元事業者の若者が受入れ)

事業アイデア

産後ケア事業の充実など
による市民病院のPR

支援制度の動画等
によるPR



4 検討した取組み案

事業アイデア

事業アイデア名

父子イベントの開催

事業の趣旨・必要性

主観調査では、母親が主に家事、育児に関わっており負担を感じるという声があったことから、普段子どもと接することの少ない父親と子どもが参加できるようなイベントを開催する。

要因①→母親がリフレッシュする時間や、したいことをできる時間（美容室に行くなど）を確保する必要がある。

要因②→若者と子どもが触れ合う機会を創出するため、イベントの企画、運営に若者の協力を得る必要がある。

事業の内容

- ・南川自然の家（宿泊・体験学習施設）のテントの貸し出しを活用して、デイキャンプ体験を実施。
- ・津田の松原（瀬戸内海国立公園、日本の白砂青松100選）で魚釣り体験、砂遊び。
- ・ALTの先生にも参加をしてもらう。
- ・キッチンカーを呼んで、食事を持ち帰ってもらうことにより、参加当日の家事負担を軽減する。
- ・お母さんもイベント参加する場合は、専門学校生に協力を得て、ネイル施術を受けられるようにする。



提供元：さぬき市観光協会（津田の松原）

4 検討した取組み案

事業アイデア

事業アイデア名

小児科や産婦人科のオンライン相談

事業の趣旨・必要性

さぬき市では基本的な子育て施策は充実しているもの、主観調査からは市内に独立した産科、小児科がないことから、不安を感じる声があった。

市民が専門的な医療相談を受けにくい状況から、オンライン相談を導入することで、通院困難な妊産婦や子育て世帯が自宅から専門医の助言を受けられ、医療アクセスの格差を解消し、安心して暮らせる環境づくりにつながる。

事業の内容

- ・小児科や産婦人科のオンライン相談を実施。
- ・若者は電話よりもSNSやLINE等によるコミュニケーションを好む傾向があることから、相談しやすい手段となる。
- ・オンライン相談ができて直接病院に行かなくてよくなった場合は、病児の兄弟までを病院に連れて行く必要がなくなる。



4 検討した取組み案

事業アイデア

事業アイデア名

遊び場の確保&マップ作成

事業の趣旨・必要性

主観調査では近隣自治体と比較して、当市は公園、遊び場が少なく、子育て世帯に優しくないというイメージがもたれていた。

また、子どもが歩いていける距離に、公園等がほしいという声もあった。

土日に遊べる場所も少ないということで、身近にある既存の施設を活用する必要がある。

公園や遊ぶ場所が身近にあるという認識が変わることで、当市に対するイメージもアップにつながる。

事業の内容

- ・通常は、予約したり使用料が発生したりするようなグラウンド、運動場等の無料開放デイを設定する。
- ・小学校、保育園、こども園、児童館も同様に開放する。
- ・市内の公園や遊べる場所をマップにまとめて、リニューアル後の市ホームページへ掲載を検討する。



4 検討した取組み案

事業アイデア

事業アイデア名

産後ケア事業の充実などによる市民病院のPR

事業の趣旨・必要性

さぬき市では、第1子の出生率が県内最下位で、出生数の減少が続いている。基本的な子育て施策は充実しているものの、インタビューでは近隣自治体と比較して、当市は子育て世帯に優しくないというイメージをもたれていた。当市の出産、子育て等に対する支援制度の認知度が低いことが、第一子を産むハードルを下げられていない。また、市内に独立した産科、小児科がないことから、不安に感じている市民もいることから、市民病院があるという強みをアピールする必要がある。

事業の内容

- ・産後ケア事業の周知（昼寝、食事、マッサージつき）。
- ・病児・病後児保育の空き状況をネットで確認できるようにする。
- ・病児・病後児保育を实际使っている様子を、マスコットキャラクターを使って動画で紹介する。
- ・病院に懸垂幕を設置して、小児科、産婦人科をPR（予防接種の予約受付中！など）。



4 検討した取組み案

事業アイデア

事業アイデア名

支援制度の動画等によるPR

事業の趣旨・必要性

主観調査では近隣自治体と比較して、当市は子育て世帯に優しくないというイメージがもたれていた。

色々な支援制度があっても、利用に向けての初めの一步はハードルが高いという声もあった。そこで、マスコットキャラクターを活用して、利用時の動画を発信し、子育て世代がイメージしやすいようなPRをする必要がある。

また、実際に制度を利用した保護者の感想等も発信する。

事業の内容

- ・ 子育てサービス（病児保育、支援センター等）の利用時の動画を発信。
- ・ 一時預かりの制度等では、保護者の実際利用した声等を発信する。
(リフレッシュや保育園に慣れるため等の利用可)



5 今後の流れ

事業化に向けて、令和8年度も検討を進め、
実効性のある事業案としてブラッシュアップしてまいります。

御清聴ありがとうございました。

